

# 湘南学園だより

SHONAN GAKUEN  
131  
2019.10.8  
DAYORI

発行：湘南学園だより編集部



## CONTENTS

働き方改革	理事長	内海直人	2
学園生が主体的に取り組み成長する広範な場面	学園長	山田明彦	3
学園は誰のもの？今、子どもたちの生きづらさと向き合う	全学教研実行委員長	山田美奈都	4
幼稚園は生活の場	幼稚園年長組担任	白井智子	5
小学校の宿泊合宿			
『修学旅行×デジタル時代』～タクシー行動の進化～	6年よきり組担任	小学校ICT主任	中許竜宏 6
『海の学校×総合学習』		三年学年主任	錦織勲 7
『山の学校日記』		四年学年主任	岸田修成 7
新たな「中1オリエンテーション」について		中高企画主任	吉川謙太郎 8
変わる大学入試	中高学習進学指導主任	石原正博	9
令和の時代に「学園の総合力向上」に皆で応援していきましょう	同窓会会長	箕元則	10
SDGsと食育ラボ	特定非営利活動法人湘南食育ラボ	理事長	小田拓也 10
松ぼっくり基金 開設のご報告とご寄付のお願い	理事長	内海直人	11
	学園長	山田明彦	12
学校法人からのご報告			



## 働き方改革

理事長 内海直人

### ●読書の秋

天高く馬肥ゆる秋というように、すがすがしい実りの季節を迎えています。「〇〇の秋」とよく言われますが、皆さんは秋と言えば何をイメージするでしょうか。スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋など、色々な言葉が出てくるとは思いますが、私が今年考えている言葉は「読書の秋」です。子どものころは本嫌い、読むのが面倒と思っていました、大人になって「継続的にアウトプット」するためには「継続的なインプット」が必要であると、常々感じていました。以前の学園だよりに書いた通り、学びというのは先人達の模倣であり創造的な発想、新たなことを発信するため（アウトプット）には、先人達から学ぶ（インプット）ことが必要です。

また読書は、本人が実際に体験せずとも、読書という疑似体験の中から人を成長させることができます。ロシアの劇作家チエーホフの言葉に、「書物の新しいページを1ページ、1ページ読



むごとに、私はより豊かに、より強く、より高くなつていく」という一節があります。一冊の本の1ページ1ページが人を成長させ、より強くなれるきっかけになる場合があります。

今年の秋は、本屋さんや図書館で皆さんをより豊かにする本を探してみたいかがでしょうか。

### ●働き方改革

今年も昨年と同様、8月下旬に神奈川県私立中学高等学校協会が主催する理事長・校長研修会に出席しました。今年はいサイボウズ株式会社チームワーク総研アドバイザーなかわらアサミ氏による「学校教育現場において個人と組織で取り組む『働き方改革』」、日本経済新聞社編集委員・東海大学政治経済学部教授の木村恭子氏による「英語を学ぶことの大切さ」のお話を聞くことができ、新たな視点を得ることができました。

現在、「働き方改革」は社会全体、特に教育現場においては深刻かつ緊急に取り組まなければ

図1

産業別1週間の労働時間の分布  
他業界と比べても、学校の長時間過密労働は異常

	週60時間(月残業160時間)以上働いている割合	週80時間(月残業160時間)以上働いている割合
建設業	13.1%	1.5%
製造業	8.3%	0.7%
情報通信業	10.2%	1.2%
飲食店	28.4%	5.2%
医療業	7.5%	1.2%
国家公務	8.7%	2.2%
小学校教諭	57.8%	2.7%
中学校教諭	74.1%	15.8%

小中学校以外は「労働力調査(2016年度)」,小中学校は「教員勤務実態調査(2016年実施)」をもとに作成  
※週55時間以上勤務の人のみを集計対象

<<https://edupedia.jp/article/5b0776d23b2c7faac6ddd97b>>

上位目的)を学園全員で考え、皆が納得する最上位目的を決めたいと思います。この理由・目的がない、腹落ち感がないところで、実際にお仕事をされている方々の働き方を変えることは不可能です。またお互いの意見が衝突した時に戻ってくることを決めること、皆さんが認識を同じにすること、それが大事だと考えています。

働き方改革はこれさえやればいいと言う特効薬も、これが正解というようなこともないように思います。それぞれの現場に沿った解決方法を、実直に進めていくしかないのです。また急な変化は受け入れにくいと思います。まずは小さく始めてみる、トライアルで始めるなど、様子を見ながら、何かあれば修正・訂正すればいいと思います。この時に大事なことは犯人捜しはせずに問題にフォーカスすることです。また、私を含め管理職や教える立場になると意外に難しいのは「間違えを認める」ということです。まずは「間違えても修正すれば大丈夫」という雰囲気づくりが大事ではないでしょうか。あまり難しく考えず、身近なところから始めて、間違ったらすぐに修正すればいい、とにかく小さな変化から始めていきたいと思っています。現在、学園では色々取り組みを始めており、さらに本格的に進めて行

またその際に、「働き方改革はなんのため?だれのため?」という働き方改革をする目的(最

きたいと考えています。当然ながら法人理事会だけが動くのではなく、教職員の方々も足並みを合わせ、意見交換を行いながら進めていかなければと思っています。現場の教職員の皆さんが主体的に取り組めること、理事会が取り組めること、それぞれの役割で相乗効果をもたらす形で取り組めればと思っています。

また、学校の働き方改革を進めるには、保護者の皆様のご理解・ご協力も必要と考えます。改めて湘南学園の「PとTの共同経営」の原点に立ち返り、保護者理事である私も含めて保護者も一緒に「学校をつくる」という気持ちを持たなければなりません。「学校をつくる」というのは不平・不満・クレームを学校にぶつけるのではなく当事者意識を持ち、それらを意見に変え、建設的な議論を続けることです。大人もストレスなく、子どもが安心していられる学校づくりを目指したいと思っています。

本理事会は、現在のメンバーになって2年目に入りました。創立100周年に向け、働き方改革を含め、今後も様々なことを具体化し、Sustainable(持続可能な)学園を創造してまいります。引き続き皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。





# 学園生が主体的に取り組み 成長する広範な場面

学園長 山田 明彦

## 学園幼稚園 日々の生活・あそび・ 行事の中で、個性豊か に元気に育つ

幼稚園では、7月初旬の年長児お泊り保育「さくらわくわくデー」からご紹介します。準備から当日まで園児達の「こうしてみよう」「あれもやってみよう」という気づきやアイデアが存分に尊重されます。調理や宿泊など様々な準備を分担し、買い物先や学園カフェテリアのスタッフとも関わりがあります。今回は園児達がメニュー希望の申し入れまで行いました。たまたご割りや校内探検などドキドキの体験が続きます。隅々まで目を配りフォローする先生方に支えられて、達成感や仲間意識を深めるのです。



異年齢との交流機会が様々な機会に生まれ、年長さんが年中さんや年少さんのお世話をよくする様子や、生き物との触れ合いが豊かで命の尊さや思いやりが育まれる様子が温まっています。毎日のおそびの中でいつも園児達の工夫や提案が大事にされ、全員保育のスクラムの中で自主性や主体性を伸ばしていく。学園教育の原点がここにありま

## 学園小学校 豊かな学力と人間性を 伸ばし、仲間と共に問 題解決力を養う

小学校では、4月下旬の全校イベント「交歓会」からご紹介いたします。1〜6年生がたてわり班のチームに分かれ、江ノ島を前に協力して砂の造形作品を創り上げ、新入生を全校児童で歓迎するという伝統ある全校行事です。広く上級生と下級生のつながり、信頼や友情が深まる機会でもあります。6年生は入学式以来、継続的に新入生のお世話をします。個別ペアの関係にとどまらず、相手全体のクラス全員を見てあげようと6年生が話し合い、2年生以上も校舎案内や学年イベントの招待で張り切ります。教科の本質と学び合いを大切



にする授業を土台に、探求的な学びで問題解決能力を育む総合学習が系統的に展開され、児童達は行動計画や振り返りのまとめ、現地での対話や交流を通じて社会にある様々な仕事やつながりを知ります。たいく表現まつりや音楽会など年間行事を通していつも創意工夫をこらし、意欲的に表現や制作に取り組む児童達は、中高進学後も積極性やリーダーシップを伸ばします。

## 学園中高 学外との出会いも大事 に、すべての体験を 「学び」にして将来へ

中高では、学外との多彩な交流や研修から紹介します。中1から高3までの総合学習では校外訪問や校内招待で社会に生き



る人びととの様々な出会いがあります。将来の夢や問題関心をスピーチして対話する「プレゼンテーション」が高校を中心に広がり、仲間理解も深めています。ロータリー長期交換留学の定着で1年間を共にする留学生がいて、一日招待の学園訪問には台湾中高生やASEAN訪日団などアジア系の人もいます。同窓会のご支援で、最先端のエネルギー開発に取り組む卒業生の大実業家をお招きする、「ESDの日」公開特別キャリア講座がアリーナで開催され、生徒会「学外活動推進部門」の企画では難民問題に取り組む有志団体の講演交流会に百名近くが集まり、防災をテーマに被災地を訪問した中高生による報告交流会も続けられました。学園カフェテリアを舞台に食と健康を考える新しい「サロン」発足には中高生も参画し、「SDGs」のアクションブック制作やプレゼン大会に

## 湘南学園が幼小中高 を通じて大切にする 教育の視点

湘南学園は、入学された学園生にとって最長で15年間にわたる学園生活を送っていただく学び舎です。そして幼稚園・小学校・中高の各パートが大事にしてきた教育実践には、大きな願いが共通に内包されていることに気づきます。湘南学園の建学の精神を参照し直し、理解を深める思いになります。

社会の激動にまけない「明朗有為な実力のある人間」に育つて、個性や持ち味を伸ばして社会の中で大いに活躍してほしい。そのために学園時代に自主性や主体性を存分に養い、周りの人々と協力してチャレンジする手応えを重ねてもらいたい。そうした願いをバックボーンとして、各パートの様々な教育の取り組みには強い一貫性があることが理解されるのです。



# 幼稚園は生活の場



幼稚園年長組担任 白井 智子

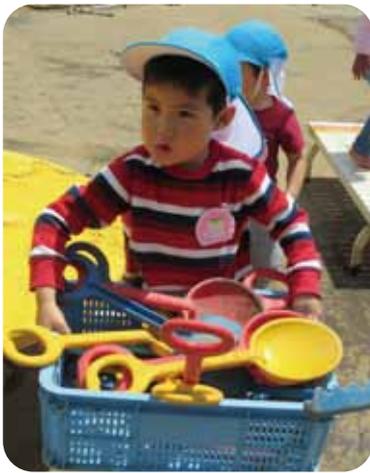
幼稚園は、子ども達が主体的に遊び、生活をする場所です。大人にとつての遊びとは、日常生活とは少し違う存在で、余暇活動や趣味の意味合いが大きいのですが、子ども達にとつての遊びは、生活と密着して、別々の存在ではなく、イコールで繋がっています。

例えば片付けです。一見遊んだ後の事務的な行為だと捉えがちですが、子ども達にとつての片付けは遊びの延長です。同じ種類の遊具に仲間分けすることや、元の場所に整えて戻す事、遊ぶ前と同じ数が揃っているかなど：子ども達は楽しみながら、いろいろなことを主体的に試したり、考えて工夫したり、時には友達と力を合わせる経験を重ねながら行っています。



## 生活は遊びでもある

年少児から年長児まで、全年が共通して行っているのが、毎週金曜日の雑巾がけです。一週間自分達が使った椅子・棚・床・遊具そして廊下などを、一人一枚の雑巾を持ち、来週もまた気持ち良く生活できるようにと清掃し整えています。



初めはたどたどしい手つきで雑巾を絞っていた年少児も経験を積み重ねていく中で、少しずつ左右の手の動かし方や力の入れ具合が分かっていきます。また、濡らす・ゆすぐ・縛る・広げる・干すなどの様々な言葉

と動作が結びつき、楽しみながら雑巾掛けをする姿が見られます。年中・年長児になると、自分の保育室だけでなく、廊下やテラス・階段・絵本の広場など、自分達で気付いた所を率先して清掃する姿が見られます。きれいに整えていく事で、気持ち良さや達成感・満足感も味わっているようです。



## 自分達の生活は

### 自分達で

お弁当や活動で使う机や椅子の準備も、発達段階に合わせて、子供達が自分達で行えるように促しています。お弁当の前には、机と椅子をクラスの数分準備するだけでなく、食事の前には台布巾で机の上を拭きます。また、使った台布巾を食後に石けんで洗い、干し、翌日に取り込み畳んで準備する事も、年中・年長児の子ども達が自ら行なっています。

台布巾を濡らし石けんを撫で



つけ、泡だてた後にゆすいで天日干しにする。大人からすると、あつという間に終わる工程も、子どもにとっては工夫と試行錯誤の連続です。

石けんを泡立てる事が楽しくて嬉しくて、泡だらけになって洗った後、すぎが足りなかった布巾は次の日、パリパリに乾き、表面に白い石けんの粉が貼りついていることに気付く、不思議そうに眺める子。水を流しながら石けんをずつと泡立てていたら、どんどん溶けてすぐに石けんが小さくなっていくことに気付く子。そこで隣のクラスの石けんの方が大きくて洗いやすい事に気付くと、借りに行ったり洗ってみたい。また、洗濯板を使って台布巾を洗ったところ、使わずに手で泡立てた時と比べて泡立ち方が異なる事に気付いた年長児が、「わあ〜こんなにこれ！すごい」と友達と顔を見合せて驚いた時の生き生きとした表情が、とても印象に残っています。

大人は色々なことを、効率良く行う方法を考えます。それに比べると、子ども達のこういった姿は、回り道のように感じるかもしれません。しかし、このような時間やプロセスが、実はとても重要なことだと思います。「どうして?」「なんでかな?」と感じたり発見したことを友達や先生と共感すること、時にはうまくいかない経験や失敗したことから、次はどうしようかと考え工夫したり、次に挑戦する気持ちにも繋がるからです。



自分達の生活を自分達で作っていく、ということは幼稚園の大きなねらいのひとつです。大人の指示を待ち、それを行う受け身の生活ではなく、自分で考え行動する子ども達であってほしい。そのためには、一人ひとりの考える力、挑戦する気持ちなどを信じて、その時間を保証しながら待ち、時に見守り時に手立ての方法を一緒に考えていく。そういった丁寧な関わり方を、引き続き行っていきたいと考えています。

## 小学校の宿泊学習

小学校では、この一学期の間に四年→六年→三年の順で宿泊学習を体験してきました。いずれの宿泊学習も単発のお泊りではありません。それぞれの学年の総合学習のテーマと関わりを持つ、息の長い学習の中の一コマです。しかし、子ども達にとっては忘れられない一コマです。今回は、各学年の宿泊学習の実践の一端をお伝えします。

## 『修学旅行×デジタル時代』

### 『タクシー行動の進化』

6年よしきり組担任  
小学校ICT主任 中 許 竜 宏



### はじめに

湘南学園は2019年度で86周年を迎えました。86年間で実践された学習は、多くの子ども達に、いつの時代にも通用する「力」を育んできました。中でも「体験」と「学び」を結びつける宿泊行事は、三年生「海の学校」四年生「山の学校」五年生「雪の学校」六年生「修学旅行」として、様々な教科や校外学習と繋がりが、豊かな学びとなつています。時代は、Social 5.0の「超スマート社会」に突入しています。この社会は、IoT (Internet of Things) で全ての人とモノが

つながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出していきます。また、人工知能(AI)も活躍する社会が実現します。湘南学園小学校は、こんな時代の変化にも順応し、指導方法や形を変えながらも様々な学習を展開していきます。今回、六年生「修学旅行」でのチャレンジについてお伝えします。小学校がこれまで大切に

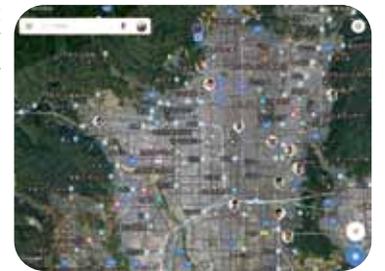
してきた『本物に触れる』ことにこだわり、教師と子ども達が互いに学び合い、発見、創造しながら学習をつくっていくために、ICTをどう取り入れるかの挑戦です。

小学校の修学旅行は、三泊四日で奈良京都に行きます。その三日目には「タクシー班別行動」として三〜四人のグループで、タクシーを一台貸し切って京都市内の寺社や名所を巡ります。その行程は修学旅行前に自分達で計画します。見学場所、移動時間、昼食をどこで食べるか、おみやげをどこで買うかなどを自分達で調べ、一日の行程を作成します。その調べ学習で活躍したのが、『Google Maps』です。

見学する場所を記入するだけで、ルートと所要時間が表示されます。ガイドブックや検索アプリも使いつながら、一日のコースを作成しました。昨年までの修学旅行では、教員本部と



タクシー会社の本部児童が乗っている28台のタクシーが個々に繋がっていました。怪我、トラブルが発生すると、児童のタクシーから連絡が入り、位置情報を確認してから、教員の配置を検討し対応していくというものでした。また、渋滞や混雑状況によっては、児童が考えた計画通りには進まないこともあるので、金閣・銀閣・清水寺にチェックポイントを設け、そこに待機している教員のチェックを受け、所在の確認をしていました。全部で28台のタクシーを貸し切ることで、その情報の共有は大変な作業でした。それが今年からは、グループに一台iPadを配布し、その中の「ロイノート」(Google Maps)を使用しました。



各グループは、カメラ機能を使い写真を撮影します。そして、見学地で撮った集合写真に出勤時間を記入し、「ロイノート」を使って担任に送ります。担任は、その写真を確認します。担任からクラス全グループにコメントや連絡事項を送ることも出来ます。一方、教員は、児童の全グループのiPadの位置情報を共有し、Google Maps上で各グループの移動を確認しながら、チェックポイントの教員と情報を共有していき、これによって教員スタッフ全員

が同じ情報を同じタイミングで共有することができ、何かトラブルが起きたときにも、すぐに対応できる環境ができました。『iPadを使用することで、可能性が大きく広がります。写真を撮ったり、時には動画だったり。ロイノートを把握したり、GPS機能を使用しながら、何かあったときには先生方がすぐに動けるように安全を確保することもできます。しかし、何よりも大切なことは、『五感を大切に、感動を見逃さない』ことです。iPadで写真や動画を撮ったりすることに夢中になりすぎて、その場の空気感を感じられなかったら本末転倒。まずは、その場所の空気感を大切に、五感すべてで感じ取って下さい。これが、児童への説明で強調したことです。iPadは便利なものであると同時に、使い方を間違えると、すべてが台無しになることもあります。チームで協力しながら充実したものになるよう、メディアリテラシーを高めていくことも重要でした。

今回、iPadを使うことで、修学旅行が大きく変化しました。児童も次々に操作し、可能性が大きく広がりました。時代と共に子ども達の教育環境は大きな変化を迎え、デジタル時代が到来してからは日を追うごとに技術が革新され、新しいものがすぐに創造される時代になりました。自然界の生命は、環境の変化に対して、自らの種が変わらないために(絶えず、少しずつ)変わり続けているといえます。湘南学園小学校が86年間の、建学の精神等に基づく授業実践を大切にしつつ、時代に合わせた、新たな考え方や教育方法等の導入を図る必要があります。「少しずつでも『変わり続ける』ことにより、『変わらない』こと。ICT機器を使用することは目的ではなく手段です。活動や体験を通して五感で体感したことがより効果的に表現できるように、ツールとしてどう使用するか。さらに、どう自分の生活や考え方に活かせるか。次世代をも見据えて、改めて、湘南学園小学校が目指す教育の原点に立ち戻りつつ、目に飛び込んでくる感動・聞こえてくる音・その場において香り・肌で感じる感覚・おいしいものを食べておいしく感じる。そんな感覚を総動員させて、その場できか感じることで、湘南学園小学校らしい修学旅行を創っていきたいと思います。

### 変わらないために、変化を続ける

今回、iPadを使うことで、修学旅行が大きく変化しました。児童も次々に操作し、可能性が大きく広がりました。時代と共に子ども達の教育環境は大きな



# 『海の学校×総合学習』

三年学年主任 錦織 勲



# 『山の学校日記』

四年学年主任 岸田 修 成



今年度の3年生は、6月6日・7日の1泊2日、三浦市のグローバルエコビレッジにて、はじめての宿泊学習「海の学校」を行いました。

何事もそうですが、この行事をより楽しく価値あるものにするには、事前の仕込み(準備)をいかに充実させるかが大切です。今年度は、そのことを意識して、事前に2人の先生をお呼びしての特別授業を行いました。活動につなげていきました。

第一弾は、NPO法人・海に学ぶ体験活動協議会の小池潔氏を招いての「江ノ島の海と磯観察」をテーマにした特別授業です。ダイビングのインストラクターとしてこの地域で活躍しておられる小池氏から、江ノ島周辺(相模湾)の海がいかに豊かで魅力的なところであるかを、毎年クサフグの産卵場所になっていることなどの具体的な事例をもとにお話し頂きました。この特別授業を受けることで、3年生のみんなが、その後の磯観察をするにあたってのモチベーションをあげることとなり、5月20日の江ノ島磯観察(小池氏のレクチャーによる)、海の学校の磯観察につながっていきました。

第二弾は、自然体験教育研究会(略称NEES)代表山田陽治氏による「三浦海岸とビーチコーミング」をテーマにした特別授業です。山田氏は、この地域



で「やまだ ようじ自然塾」を開き、NHK「なりきりむーにやん生きもの学園」の番組アドバイザーも務めている方です。山田氏が実際に

ビーチコーミングで見つけた様々な漂流物を紹介していただきながら、三浦海岸でもたくさん見られる「タカラ貝」の話など、子どもたちの興味を引くようなお話をして頂きました。海の学校当日のビーチコーミングで、氏のお話に出てきたものを一生懸命に探す子どもたちの姿がたくさん見られました。

これらの活動は、それぞれがつながり合いながら、学びを体験的に深めていこうという意図で進めています。実際に経験を重ねていくことで、子どもたちの様々な発見につながり、豊かな学びになっっていると感じています。

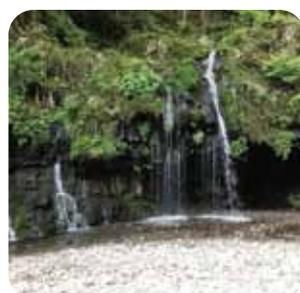


四年生は五月一五日から二泊三日で「山の学校」に行った。活動場所は富士山周辺だ。四月から、子どもたちはその準備に追われてきた。食事係やキャンプファイヤー係など、係りの仕事に右往左往。休み時間も仕事優先で取り組んだ。

山の学校の日がやってきた。大きな荷物を背負った四年生がニコニコ集まって来た。不安げな様子な子も、一人二人と友だちが姿を見せると表情が柔らかくなった。

一日目はいきなり山登りからスタート。大人にすれば、トレッキング程度のものだが、子どもの目線で山道を見ると、たいしたことがないと思われる登り坂が急登だったり、より岩が大きく見えたりした。子どもにとつてみれば、ほぼ登山だ。「疲れた〜」、「まだあ〜」の声も出たけれど、みんな登り続けた。

新緑の森を抜けると、視界が広がって樹海や遠くの山々と湖が見えた。背中には富士山がドーンと構えていた。三日間のフィールドを一望できた。



二日目は、こうもり穴と樹海を歩き、富士山周辺の不思議を知った。陣馬の滝では水が湧き出る様子に釘付けになった子がいた。地下から染み出た湧き水が滝となって流れるのを見て、富士山がいかに大きな水瓶であるかが分かったのだろう。

宿に到着後、すぐに入館式。山の学校リーダーが司会とあいさつをした。司会を務めた男の子は、悩んで悩んだ末に自ら手を挙げた。やろうと思わなければ何もしない。やってみなければ事は起らない。練習のときからずっと緊張していたけれど、自分の力で殻を破った勇氣は、新しい力となったことだろう。

夜は、絶滅したと思われたクニマスが、西湖で発見された話を、紙芝居と劇で鑑賞した。翌日、目の前で泳ぐクニマスを見てみんな驚いた。話に聞いたクニマスが目の前で元気に泳いでいたからだ。

たくさんある山の学校の思い出の中で、宿で過ごしたことを取り上げる子が何人もいる。部屋のことお風呂のこと。普段は学べないことがたくさん学べたことだろう。そして、友だちと一緒に露天風呂の中で寝転がるように見上げた夜空は、さぞかし格別だっただろう。

ああ、山の学校一日目の夜が更けていく...



最後の夜は、湖畔でキャンプファイヤーを囲んで歌って踊った。燃え上がる炎と天まで舞い上がる火の粉を見て大興奮した。一〇歳の子どもはこれくらいじゃなきやだめだ。キャンプファイヤーが終わったあとは、心も身も燃え尽き放心状態だった。心地良い夜風。穏やかに揺めく湖面。優しい月明かり。日本一の山に抱かれた三日間。夜空ノムコウに子どもたちの明るい未来がある。

# 新たな「中1オリエンテーション」について

中高企画主任 吉川 謙太郎



今年度から始まった取組の一つに、「入学直後」と「初めての定期試験（前期中間試験）の結果が出た直後」の2回にわたり実施した「中1オリエンテーション」があります。

そのねらいは、「湘南学園中での6年間を有意義に過ごすための基礎的な姿勢を持つるようになる」ということに集約されます。ここでは「基礎的な姿勢」とは、「『持続可能な社会の担い手』になろうという姿勢」「自分にあった学習方法を持ち、自ら学習に取り組もうという姿勢」「スムーズな人間関係を築けるような姿勢」等のことを想定しています。

それぞれの回のことについて、少し具体的に記していきます。



## ★第1回（4/13（土）153校時）

目的は以下のように設定しました。

個々の生徒が「持続可能な社会の担い手」になるのだという意識をもち、湘南学園がそうなるための実践ができる場としてあるということを理解する（ための第一歩とする）こと。

そして、具体的な活動内容をつくるにあたって、以下の4つのコンセプトを設けました。

①自分の経験に則して、自分の言葉で、自分の思いを語れる



ようにする（「発信」）。

同時に、他の人の語る思いも受け止められる（聞ける）ようにする（「傾聴」）。

②自分の経験をより豊かなものにするためにも、積極的にチャレンジしていきけるようにする。

③「これはおかしいのではないか」とか「こうした方がよいのではないか」といったことがあれば、不平を言うだけではなく、自分から変えようという意志をもち、状況を鑑みながら、行動していきけるようにする。

④「話し合い」の手法や作法を知り、「熟議」をすすめるに至る一歩とする。

①中1のなるべく早い段階で、生徒一人一人が「学習習慣」を確立すること。

## ★第2回（6/19（水）456校時）

目的を以下の3つとしました。

②生徒一人一人が内発的な学習をしていけるようにすること。

③最初の定期試験を経た段階

で、学習意欲・学習姿勢等が低下し、そのままの状態にならないようにすること。



これらを大枠として、グループワークなども取り入れながら実施したのですが、両回において「湘南学園らしさ」が強く発揮されたことがあります。それは、中2〜高2の在校生諸君が多数参加してくれたことです。当日は、在校生諸君が、ほぼ取り仕切ってくれました。そして、「自分から行動を起こすことが大切」「湘南学園では、いろいろなことにチャレンジできる」「目標を持って勉強するとよい」といったメッセージや、成功したこと、失敗したこと等々について、学園生活でのそれぞれの経験を背景にして、新入生たちに寄り添い、自分の言葉で語りかけてくれました。それは、教員の想定以上の素晴らしさで、

これからの生活の中で、何か自分にとって大事なことに気づき、それを、来年度以降の新入生に伝えてもらえるようになる、とても良いなと考えています。



湘南学園生の底力を見せつけられたといった感がありました。

中1生諸君の心にはどう響いたのでしょうか？話を聞いた瞬間に「これだ！」というように思った人もいるでしょう。あるいは、これから学園生活をおくっていく中で、先輩たちのコトバがジワジワと効いてくるというたことになる人もいます。受け止め方は、それぞれでしょうが、これからも、いろいろな人たちの話を聞きながら、だんだんと「自分の意見」を形づくっていくことが大切だといえるでしょう。

これからの生活の中で、何か自分にとって大事なことに気づき、それを、来年度以降の新入生に伝えてもらえるようになる、とても良いなと考えています。

# 令和の時代に「学園の総合力向上」に 皆で応援していきましょう

同窓会会長 筧 元 則

同窓会会長を務め、5年が経過しました。近年、学園の総合力が世の中で力を発揮する時代が来ている様に思えます。

大きな時代の変化に、学園の対応の素晴らしさが随所に感じられます。総合学習の積み重ね、ユネスコスクールに認定され、グローバルな学びへ、キャリア教育の充実等、しっかりと時代をとらえて取り組んでいます。特に、湘南学園ESD（持続可能な開発の為の教育）は学園が目指す教育を具現化したものであり、すでに受験科目に「ESD入試」を加えています。SDGs（持続可能な開発目標）は国連でも認められ世界的な関心事になっていきます。

令和の時代に入り一気に世の中の変化は加速され、偏差値とか、ブランド（学校名）というものを利用してきている時代はもうすでに終わりにきているでしょう。今まで以上に実力社会になってきていると思います。企業に入ってからいい仕事ができる人は、偏差値の高い学校、有名なブランド学校を出た人が社会のトップに立っている分けではありません。湘南学園で云う人間力のある人が求められている時代だと思えます。

6月に行われた山下耕平先輩（湘南学園4回生）のキャリア講座はまさに時代性をとらえており、時代にぴったり合ったタイミングで、高1、高2の生徒中心

への講義とパネルディスカッションが行われ、私もお話を聞いて大いに感動いたしました。

この大きな時代変化の時に、時代を変える「6つのC」①好奇心、②勇氣、③挑戦、④自信、⑤継続、⑥集中のお話は、私も実社会に出てからも常に意識し、自分自身の成長に大いに関与してきたことを思い出します。

グローバル社会では、教える側の姿勢が大きく影響を与えると思います。教える側が常に幅広く好奇心を持ち、学びと教えにどれだけ情熱を保っているかに掛かっているでしょう。

この6つのフアクターが他校に負けないう、湘南学園に成長されることを願っております。

同窓会も今回の山下先輩によるキャリア講座の機会に新設される「松ぼっくり基金」を今後継続して、学園の発展の為に押し進めてまいります。



## SDGsと湘南食育ラボ

特定非営利活動法人湘南食育ラボ

理事長 小田 拓也

地球レベルの環境悪化は、体感できるようなレベルにまで加速しているように見えます。湘南学園におけるSDGsの取組は、自然、文化、人為的にもたらされる変動に対する、現在、未来に対する認識と思考は、大きな意義を持つと感じています。食育を理念とし、食の安全を目指す私たちにとって、自然環境、食を巡る社会の変化は持続的な食の提供に直接かかわる問題であり、強い関心事として臨んでまいります。

### ■湘南学園中学校高等学校SDGsアクションブック制作チームの取組

そのSDGsについて、生徒の皆さんから、啓発をいただく貴重な機会をいただきました。過日、中学生によるSDGsアクション・レポートなどの記事で構成される、「SDGsアクションブック」かながわの取材が、湘南学園中学校高等学校アクションブック制作チームから取材の申し出をお受けした折のことです。

同制作チームよりいただいた、インタビューにおいて私たちの目配りが及ばないような、問題意識のもとに、しっかりとした時間軸の意識のもとにNPO設立の経緯、理念、運営における対話は熱のこもった時間となりました。

### ■食への問題意識

話題は、湘南食育ラボの「安心と安全とおいしさ」へのこだわりとなり、カフェテリアの米は「援農」により生産に参加し、農薬、化学肥料を使用せず生産されているとの説明に対し強い関心を示していただきました。地元で営農の、無農薬、有機農法生産者を訪問することと、安心、安全な野菜を栽培する畑で生産現場での体験、体感したいとの希望によるもの伺いました。

### ■持続可能な未来のための食育

身近な対象からの取組みとして、湘南食育ラボを選択していただきましたが、今後の取組に大きな触発を受ける機会ともなりました。戦後の食糧難解消のため、化学肥料、農薬投下による生産の土壌負荷は、連作障害や、健康影響の原因ともなっています。その一方で近年、農業の周辺環境が急速に変化し、減農薬による生産が進むなど目に見える形で新たな動きが加速しています。SDGsは、多岐にわたる問題を対象としていますが、食は海、陸の自然環境、健康、産業に、密接に関連しています。未来に向けた「持続可能な未来のための食育」を、湘南学園の中高、小学校、幼稚園の皆さんとともに進化させてまいります。

# 令和の時代に「学園の総合力向上」に 皆で応援していきましょう

同窓会会長 筧 元 則

同窓会会長を務め、5年が経過しました。近年、学園の総合力が世の中で力を発揮する時代が来ている様に思えます。

大きな時代の変化に、学園の対応の素晴らしさが随所に感じられます。総合学習の積み重ね、ユネスコスクールに認定され、グローバルな学びへ、キャリア教育の充実等、しっかりと時代をとらえて取り組んでいます。特に、湘南学園ESD（持続可能な開発の為の教育）は学園が目指す教育を具現化したものであり、すでに受験科目に「ESD入試」を加えています。SDGs（持続可能な開発目標）は国連でも認められ世界的な関心事になっていきます。

令和の時代に入り一気に世の中の変化は加速され、偏差値とか、ブランド（学校名）というものを利用してきている時代はもうすでに終わりにきているでしょう。今まで以上に実力社会になってきていると思います。企業に入ってからいい仕事ができる人は、偏差値の高い学校、有名なブランド学校を出た人が社会のトップに立っている分けではありません。湘南学園で云う人間力のある人が求められている時代だと思えます。

6月に行われた山下耕平先輩（湘南学園4回生）のキャリア講座はまさに時代性をとらえており、時代にぴったり合ったタイミングで、高1、高2の生徒中心

への講義とパネルディスカッションが行われ、私もお話を聞いて大いに感動いたしました。

この大きな時代変化の時に、時代を変える「6つのC」①好奇心、②勇氣、③挑戦、④自信、⑤継続、⑥集中のお話は、私も実社会に出てからも常に意識し、自分自身の成長に大いに関与してきたことを思い出します。

グローバル社会では、教える側の姿勢が大きく影響を与えると思います。教える側が常に幅広く好奇心を持ち、学びと教えにどれだけ情熱を保っているかに掛かっているでしょう。

この6つのフアクターが他校に負けないう、湘南学園に成長されることを願っております。

同窓会も今回の山下先輩によるキャリア講座の機会に新設される「松ぼっくり基金」を今後継続して、学園の発展の為に押し進めてまいります。



## SDGsと湘南食育ラボ

特定非営利活動法人湘南食育ラボ

理事長 小田 拓也

地球レベルの環境悪化は、体感できるようなレベルにまで加速しているように見えます。湘南学園におけるSDGsの取組は、自然、文化、人為的にもたらされる変動に対する、現在、未来に対する認識と思考は、大きな意義を持つと感じています。食育を理念とし、食の安全を目指す私たちにとって、自然環境、食を巡る社会の変化は持続的な食の提供に直接かかわる問題であり、強い関心事として臨んでまいります。

### ■湘南学園中学校高等学校SDGsアクションブック制作チームの取組

そのSDGsについて、生徒の皆さんから、啓発をいただく貴重な機会をいただきました。過日、中学生によるSDGsアクション・レポートなどの記事で構成される、「SDGsアクションブック」かながわの取材が、湘南学園中学校高等学校アクションブック制作チームから取材の申し出をお受けした折のことです。

同制作チームよりいただいた、インタビューにおいて私たちの目配りが及ばないような、問題意識のもとに、しっかりとした時間軸の意識のもとにNPO設立の経緯、理念、運営における対話は熱のこもった時間となりました。

### ■食への問題意識

話題は、湘南食育ラボの「安心と安全とおいしさ」へのこだわりとなり、カフェテリアの米は「援農」により生産に参加し、農薬、化学肥料を使用せず生産されているとの説明に対し強い関心を示していただきました。地元で営農の、無農薬、有機農法生産者を訪問することと、安心、安全な野菜を栽培する畑で生産現場での体験、体感したいとの希望によるもの伺いました。

### ■持続可能な未来のための食育

身近な対象からの取組みとして、湘南食育ラボを選択していただきましたが、今後の取組に大きな触発を受ける機会ともなりました。戦後の食糧難解消のため、化学肥料、農薬投下による生産の土壌負荷は、連作障害や、健康影響の原因ともなっています。その一方で近年、農業の周辺環境が急速に変化し、減農薬による生産が進むなど目に見える形で新たな動きが加速しています。SDGsは、多岐にわたる問題を対象としていますが、食は海、陸の自然環境、健康、産業に、密接に関連しています。未来に向けた「持続可能な未来のための食育」を、湘南学園の中高、小学校、幼稚園の皆さんとともに進化させてまいります。



# 松ぼっくり基金 開設のご報告とご寄付のお願い

理事長 内海直人  
学園長 山田明彦



## 「松ぼっくり基金」 の開設について

湘南学園は、昨年度に創立85周年の節目を経て、令和の新時代を迎えました。風光明媚な湘南・鶴沼の地に小規模な幼稚園と小学校として産声をあげ、現在では幼稚園、小学校、中高を合わせて2千名近い学園生が通学する私立の総合学園として新たな歴史を刻んでいます。

建学の精神である「個性豊かなにして、身体健全、気品高く、社会の進歩に貢献できる、明朗有為な実力のある人間の育成」という教育の志を改めて現代社



会の中で深め直しております。教職員と保護者の共同を大切に、激動する未来を生きていく次世代の成長に寄与する学園教育の発展をはかつていく所存です。開学当初から鮮明な「個性尊重の自由教育、子どもたちの成長第一の手づくりの教育」という「学園DNA」は、現在も脈々と受け継がれています。

今世紀に入り、2004年に中高校舎等の新築、2012年に小学校の全面改築、2013年に80周年記念館の完成とカフェテリアの開業など、長期計画にもとづく事業を実行してきました。

一方で少子化の進行や公立学校の巻き返しが進み、私立学校間の募集競争が激化しています。

多数の私学が募集と経営の困難に直面し、改めて建学の精神にもとづく教育の質と独自性が問われており、より魅力的な学園生活を送ることができる教育環境の整備という課題では、本学もまだ不十分な現状があります。特に近年、グローバル教育やIT機器活用教育、校舎の設備関連など私学に課せられる必要経費が急速に増大しました。

他方で私立学校としての財源

は、「校納金」及び「助成金」そして「寄付金」が主な柱となります。家計負担上の限界が増し、国と地方の財政の現状を考慮すると、学園へのご支援の志をお受けする新たな「受け皿」を改めて整備し、広く卒業生や関係者の皆様に募金をお願いする必要がありますと判断いたしました。

創立90周年、100周年、その先の将来を見すえて、学園教育の充実と経営の安定を推進し、独自の私学としての教育の使命をはたしてまいりたく、「湘南学園松ぼっくり基金」を創設いたします。学園の立地を象徴して校章の軸となり、文集タイトルとしても踏襲されてきた「松ぼっくり」の名を学園史のシンボルとして今回も採用しました。学園の財政を支えて、学園生のために豊かに運用される強固な基金を設けていきたいと存じます。

## 「松ぼっくり基金」 の対象者の方々

卒業生とご家族の皆様、学園生の保護者の皆様をまず念頭においております。本学の教職員及び在職経験者や、本学に関心

をお持ちの一般の方、本学に関係のある法人・団体など広範な方々からのご支援も期待しております。個人寄付は1口5千円からお願いいたします。法人・団体寄付は特に金額を定めておりません。ご寄付いただいた方々については「湘南学園寄付者芳名録」に記載し、学外の個人・団体は（ご匿名も可）特別広報の機会に掲載いたします。

## 「松ぼっくり基金」 のプログラムと方法、 税額控除

「松ぼっくり基金」の用途を指定しない「一般寄付」とともに、今回は「使途指定寄付」をご用意いたしました。「この分野やこの学校への具体的な支援になるような寄付をしたい」といったご意向が広範におありになるのではと考えた次第です。たとえば「学園生の海外留学支援」や「学園中高生の部活動支援」、在学の経歴などによる「学園小学校の教育環境支援」や「学園幼稚園の教育環境支援」などの項目、「特別教職員採用・教職員研修支援」の項目もあげ、その他ご指定の用途を明記していただく欄もご用意させていただきました。

募金の方法では、通常の振込用紙を使用する「書面手続きでのご寄付」に加えて、「ウェブでのご寄付」や「定期的なご寄付」などの設定も考慮いたしました。

また湘南学園へのご寄付をされた個人や団体について、所得税、住民税や法人税などで広く税額控除の対象になる措置が設けられることにも、ご留意いただけるとありがたいです。

## これまでお願いしてきた 寄付金との関係 におけるご報告

創立80周年記念の募金事業では2年以上にわたって多額のご協力をいただき、記念館建設、記念式典、記念誌とDVD制作、ホームカミングデー、音楽祭など記念行事経費に充てさせていただきました。創立85周年記念の募金事業では5か月で3百万円以上のご協力をいただき、記念冊子制作やタウン誌等広報出稿、記念花壇造りなどを実施することができました。

また毎年度、学園生保護者を主な対象に「教育振興寄付金」へのご協力をお願いし、毎年度百件前後で一千万円前後のご寄付をいただいております。

さらに毎年度、幼小中の新入生保護者を対象に「教育充実基金」へのご協力をお願いし、百数十件で千数百万円のご寄付をいただいております。

今回の「松ぼっくり基金」の発足にあたって、従来の「教育振興寄付金」は、今年度中に「松ぼっくり基金」に組み入れて運



用させていただきますと考えております。年度途中の変更となつてしまい、失礼な対応になることについて心よりお詫び申し上げます。このご案内では、「グローバル教育の推進」「ICT教育設備品の拡充」「カフェテリアの施設設備の拡充」を示しておりますので、頂戴した寄付金についてもその主旨に沿って活用させていただきます。他方、新入生対象の「教育充実資金」については、独立性の高い内容のため、今後も別枠で継続させていただきます。

全体として周年行事の節目にとどまらず、永続的な基金の構築に向けて、幅広い個人と団体からのご寄付の受け皿を、出来るだけ統合してご案内に努めていくことが主眼です。

基金の詳細につきましては、別紙のご案内リーフレットと学校法人湘南学園ホームページをご参照いただければ幸いです。どうか広範な皆様のご理解をいただき、大きなご支援を賜りたく、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

### \*お問い合わせ\*

湘南学園法人事務局  
TEL. 0466-23-6611  
平日 8:20~16:30  
土曜 8:20~12:20

## ●●●●●●●●●● 学校法人から ●●●●●●●●●●

### ●理事会報告

これまでに、次の理事会を開催いたしましたのでご報告いたします。

第1回定例理事会	4/13
第1回臨時理事会	4/26
第2回臨時理事会	5/11
第2回定例理事会	5/25
第3回定例理事会	6/22
第3回臨時理事会	7/11
第4回定例理事会	7/20
第5回定例理事会	8/23

### ●主要な議題・報告等

- 小学校特別事業「ICT機器整備」について
- 特別事業「軽トラック購入」について
- 中高丁合機リースについて
- 中高オフィス（カラー印刷機）リースについて
- 2019年度神奈川県私立中高協会の負担金等の支払いについて
- ブロック塀耐震対策工事業者の選定について
- スクールカウンセラーの委嘱契約内容の一部変更（追記）について
- 85周年記念冊子に関する報告
- 85周年記念事業の収支最終結果
- 2019年度の1年単位の變形労働時間制に関する協定書・覚書について
- 2019年度の36協定締結について
- 中高特別事業「メディア室PCリプレース等（PCの入れ替え、サブモニターを含めた環境の再構築）」について

- 2018（平成30）年度事業報告（案）について
- 2018（平成30）年度決算報告（案）について
- スポーツ振興センター災害共済給付掛金の支払いについて
- 小学校校納金の改定について
- 小学校学則の変更について
- 特別事業「幼小中高長期修繕工事」の業者選定について
- 幼稚園給排水管更新工事の業者選定について
- 屋上テニスコート防球ネット張替え工事の業者選定について
- 2018年度事業報告書の確定について
- 2018（平成30）年度決算書の確定について
- 湘南学園松ぼっくり基金の創設にむけて（案）
- 2019年度評議員補充選挙における「理事・評議員選任規程」の運用と今後の対応について
- 中高渡り廊下部の軒天新設工事業者の選定について
- 慶弔規程の一部改正について

### ●評議員会報告

これまでに開催された評議員会についてご報告いたします。

第1回評議員会 5/25

### ●主要な諮問事項等

- 2018年度事業報告書（案）について
- 2018（平成30）年度決算書（案）について
- 湘南学園松ぼっくり基金の創設にむけて（案）

## ●●●●●●●●●● 事務局からのご連絡 ●●●●●●●●●●

### ●住所変更のお手続きについて

お引越し等の事由により、ご登録頂いている住所が変更された場合は、誠に恐れ入りますが、住所変更のお手続きをお願い申し上げます。なお住所変更に係る所定の様式は、事務局に準備させて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

### ●登下校・登降園時の自家用車送迎禁止について

湘南学園では、園児・児童・生徒の登下校・登降園にあたっては、自家用車での送迎は原則禁止とさせて頂いております。園児・児童・生徒の安全確保はもとより、近隣の住民の方等への安全配慮もご考慮いただき、改めてご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、園児・児童・生徒の病気や怪我等の特別な事情で止むを得ない場合は、必ず事前に学校（園）にご連絡くださいますようお願い申し上げます。